

建設発生土・汚泥の土質改良などに

廃石膏ボードを原料とした

『固化材製造プラント』



(株)田中建設

×



石膏ボードリサイクルの現状

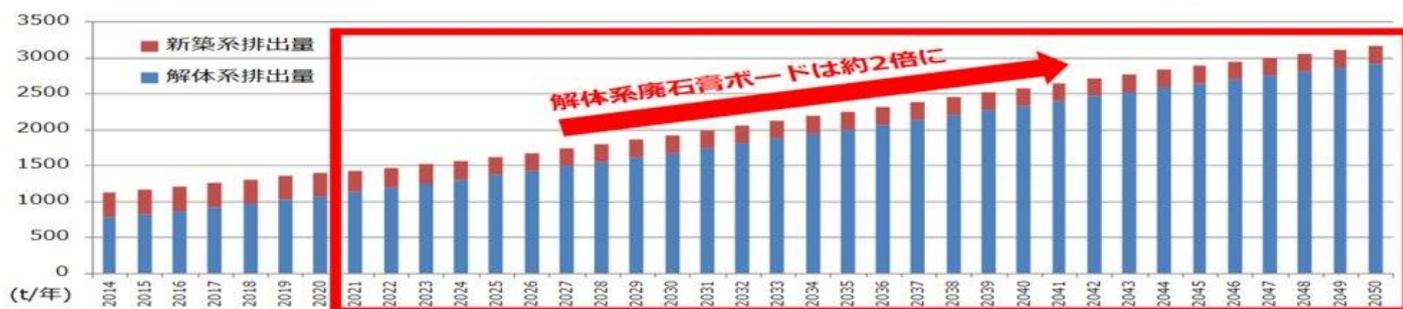


●石膏ボードの概況

- 戦後に生活の洋風化が進んだことや耐火性能を評価された石膏ボードは、1970年代から着実に普及し、近年は約5億m²/年で推移している。
- 比較的安価で防耐火性が優れており、多様な組み合わせにより高い遮音性を併せ持ち、軽量で工期も短いため住宅をはじめオフィスなどの非住宅部門でも内装下地材として幅広く使用されている。
- 使用量が増加し始めた1970年代以降の木造住宅が寿命を迎え、**今後解体系の廃石膏ボードが大量に発生する。**

●廃石膏ボードの年間排出量推計

出典：石膏ボードハンドブックハンドブック(平成24年度版)

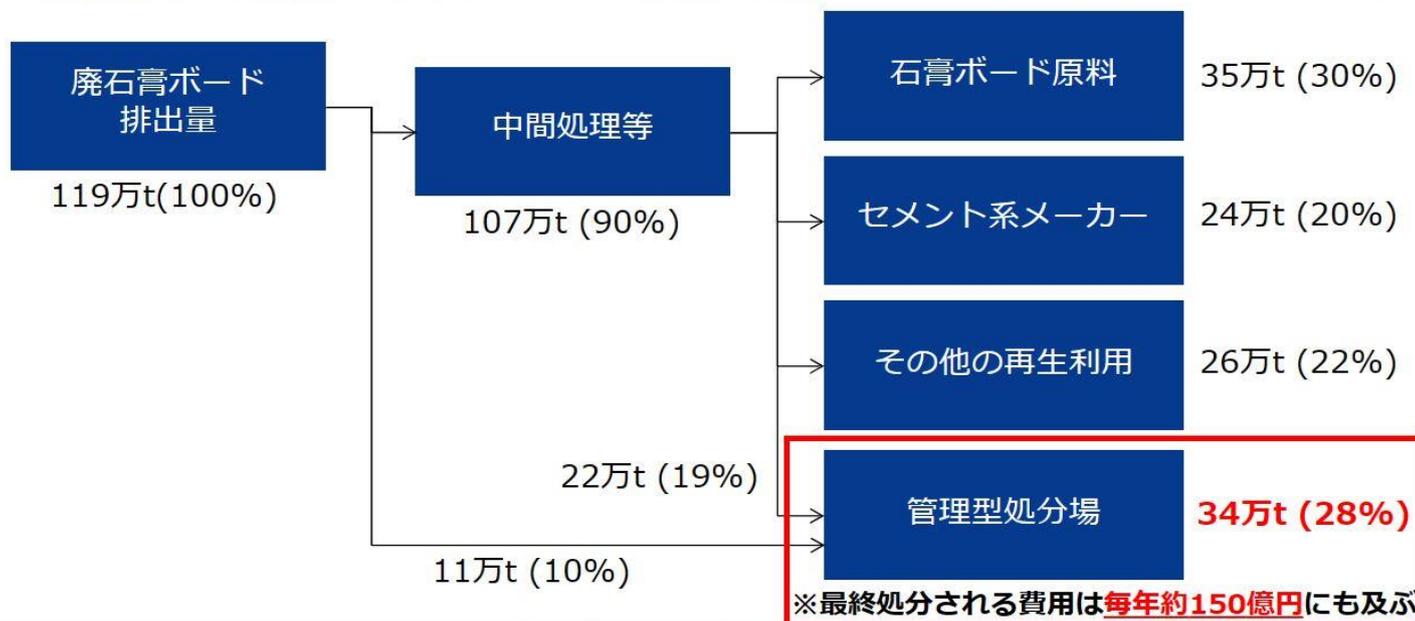


老朽化した家屋やビルの解体が増えるため、解体系廃石膏ボードの排出量は今後増え続ける！

石膏ボードリサイクルの現状



●廃石膏ボード全量のマテリアルフロー(平成28年度) 出典：再生石膏粉の有効利用ガイドライン(第一版)

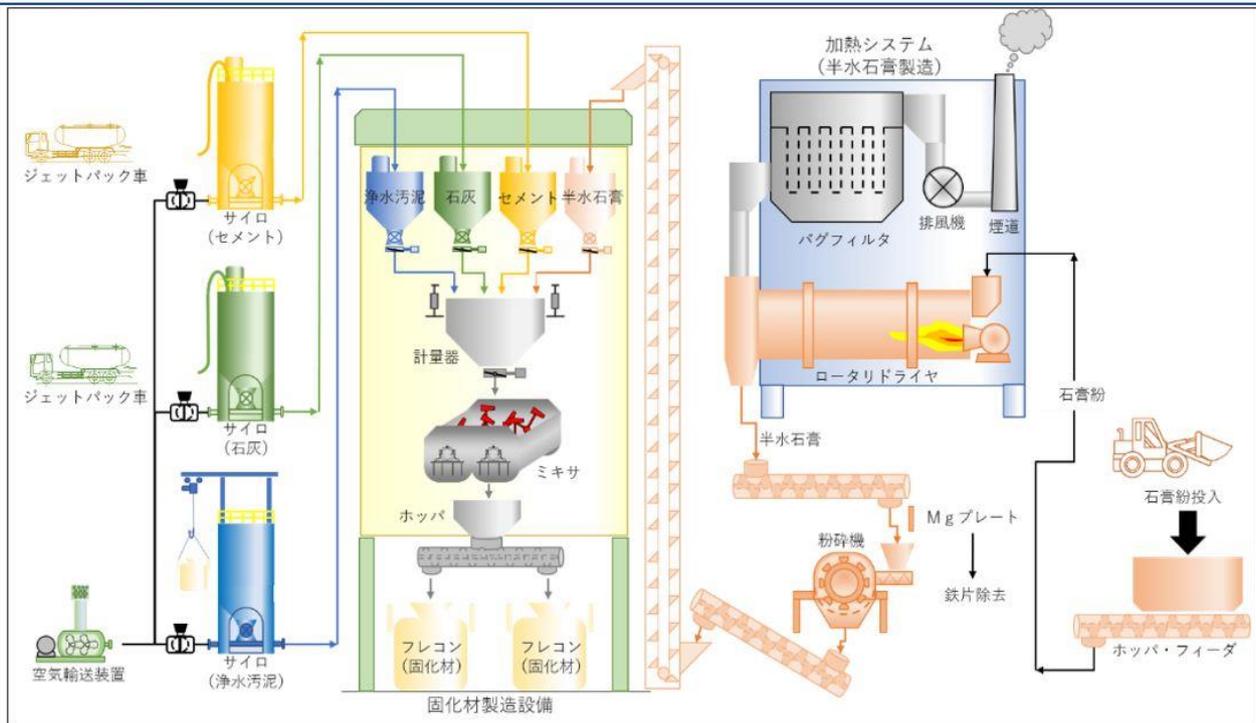


事業の目的



- 2021年4月全国建設発生土リサイクル協会(JASRA)を設立。国土交通省とタイアップし、国土強靱化に向けた取り組みを実施。
 - ⇒全国へ改良土を普及させる
 - ⇒改良土の普及で固化材使用量の増加
- 石膏再生協同組合の会員であり、廃石膏ボード処分場逼迫状態を解消するために再資源化の検討と、最終処分場の延命化を目指す。
 - ⇒固化材の原材料として再利用
 - ⇒再資源化で既設固化材と価格差(安価提供)
 - ⇒延命化で処分コストの削減
- 一方で、気候変動の影響で豪雨災害等が増大。改良土による国土の基盤強化は急務。全国各地に改良土を取り扱う業者は約500社存在。各地域で災害復旧に迅速に取り組める方法を考案。
 - ⇒改良土センターと固化材プラントの併設

プラントの仕組み・フロー図



石膏系固化材製造プラント



全国に固化材プラントを！
固化材を作る技術とプラントを開発

廃石膏ボードを再資源化し固化材へ、石膏廃材を大量消費可能に！

1 廃石膏ボードの再利用



解体工事で残る
廃石膏ボードを再利用

2 固化材製造プラント



固化材製造プラントで
固化材にリサイクル

3 固化材の出荷



固化材として出荷され、
有効活用されます

固化材プラントを置くことで、
改良土センターとの距離が近くなり、
手配しやすくなります。



お問い合わせを
お待ちしております

未来の地球へ私たちが作るストーリー 環境保全の持続、そして豊かな未来を創る循環型社会形成に貢献します。



株式会社 田中建設



0761-51-7880



◀WEBからの
お問い合わせはこちら

〒923-1237 石川県能美市上清水町タ70番地1

<http://tanakaken.com/>

株式会社田中建設

検索